

第7次環境経営活動基本計画(2010～2012年度)の2012年度活動実績と評価

川崎重工グループは「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与することを基本に据え、「陸・海・空にわたる基礎産業」としてグローバルに事業展開する中で、地球環境問題の解決を図るため、第7次環境経営活動基本計画(2010～2012年度)(以下第7次計画)では、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然共生社会の実現」および「環境マネジメントシステムの確立」の4項目で取り組んできました。2012年度活動実績と第7次計画の評価は下表の通りです。

第7次環境経営活動基本計画(2010～2012)

低炭素社会の実現 エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献

1. 地球温暖化対策

- 1) 自らの生産活動に伴うCO₂排出量の削減・全社省エネ活動を推進するためCO₂見える化・検証の仕組みづくり
 - 全社CO₂削減対策(省エネ設備投資)
 - 特定荷主として物流における省エネ推進
- 2) 当社の製品・技術による排出量獲得
 - 当社の製品・技術による国内外の排出量獲得(CDM等)の仕組みづくり
- 3) 取引市場からの排出量購入
 - CO₂削減目標未達成の場合の措置
- 4) 寄付行為等による排出量獲得

全社目標

2007年度を基準とし、2008～2012年度の平均排出原単位(CO₂排出量/売上)10%削減

循環型社会の実現 資源を無駄なく利用する製品とものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる

1. 廃棄物総排出量削減に向けた取り組み

- 1) 省資源、3R(廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化)の推進
- 2) ゼロエミッション活動、リサイクル率の向上

全社目標

2002年度を基準とし、2012年度までに排出原単位(廃棄物総排出量/売上高)を12%削減、ゼロエミッションの維持

2. PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー

自然共生社会の実現 地球環境に調和した製品とものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献

1. 化学物質削減に向けた取り組み

- 削減目標設定と活動推進(設計・生産両面からの取り組み)

全社目標

管理対象の化学物質について、2003～2005年度平均を基準とし、2010～2012年度の削減目標を設定

2. 製品・技術を通じた環境貢献

- 1) 製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み
 - 製品ライフサイクルアセスメント実施に向けた対応基盤の整備
- 2) 製品のグリーン化・製品に対する環境配慮の推進

3. 生物多様性への影響低減と保全

- 1) 生物多様性の行動指針の策定と保全の推進

環境マネジメントシステムの確立

環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり

1. 川崎重工グループにおけるEMSの構築

全社目標

2012年度までに国内および海外重要生産拠点である連結子会社のEMS構築を完了

2. 環境法令等遵守の徹底

- 環境事故の再発防止

3. 環境コミュニケーションの推進

- すべてのステークホルダーとの環境対話の推進

第7次環境経営活動基本計画の主な施策

- 低炭素社会の実現
2012年度までの温室効果ガスの全社目標である、2007年度を基準とし、2008～2012年度の平均排出原単位(= CO₂排出量 / 売上高)を10%削減することを目指して、地球温暖化対策の具体的な活動を実行します。
- 循環型社会の実現
廃棄物総排出量削減に向けた取り組みとして省資源・3Rの推進などにグループ全体で取り組んでいきます。
- 自然共生社会の実現
化学物質削減に向けた取り組み、製品・技術を通じた環境貢献などを推進していきます。
- 環境マネジメントシステムの確立
国内および海外連結子会社のEMS構築を推進するとともに、環境リスクマネジメントや従業員の環境教育に取り組んでいきます。

	2012年度活動実績	第7次計画評価
	1.地球温暖化対策 1)生産活動に伴うCO ₂ 排出量の削減 ●平均排出原単位は目標未達成、不足分はCO ₂ クレジットを活用 ●エネルギー見える化システムの有効性をパイロット工場で確認 ●省エネ設備の導入と効果を検証 2)エネルギーを有効に活用する製品の提供 ●製品によるCO ₂ 排出量削減:約50万t-CO ₂ 3)取引市場からの排出量購入 ●国内クレジット制度からCO ₂ クレジットを獲得 4)寄付行為等による排出量獲得 ●森林保全活動によるCO ₂ 吸収量認証書を授受	○
	1.廃棄物総排出量削減に向けた取り組み 1)総排出量は原単位で23%削減し、目標を達成 2)最終処分率は1%以下とゼロエミッションを維持 ----- 2.PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー 1)高濃度PCB含有機器は日本環境安全事業(株)(JESCO)への処理委託を開始 2)低濃度PCB含有機器は、処理動向を調査	○
	1.化学物質削減に向けた取り組み 1)設計・生産両面から削減目標を設定 ●低VOC塗料や重金属フリー塗料の導入を推進したが一部目標未達 ----- 2.製品・技術を通じた環境貢献 ●生産活動、製品からの環境負荷低減を推進 ●化学物質関連の法規制対応を徹底(ELV指令、RoHS指令、REACH規則等) ●製品・技術を通じた環境貢献の情報発信 ----- 3.生物多様性への影響低減と保全 ●兵庫県、高知県、宮城県で従業員およびその家族による森林保全活動を継続	△
	1.川崎重工グループにおけるEMSの構築 1)国内および海外連結子会社のEMS構築計画の策定と推進 ●国内、海外の主要な連結子会社でEMS構築 2)グループ全体の主要環境データ収集 ●国内関連企業では、ITシステムによるデータ収集体制を構築 ●海外関連企業では、法規制への適用状況や環境負荷状況を調査 ----- 2.環境法令等遵守の徹底 1)環境法令等の遵守状況をフォロー 2)環境法令の制定・改訂情報を全社に展開 ----- 3.環境コミュニケーションの推進 1)環境eラーニングの実施、内部環境監査員養成研修の実施 2)社内外への環境情報の発信(CSR報告書等)	△
	1)環境eラーニングの実施、内部環境監査員養成研修の実施 2)社内外への環境情報の発信(CSR報告書等)	○

○:目標達成 △:一部未達成 ×:取り組み不十分